

2019 年 8 月 6 日
一般社団法人 東京ビエンナーレ

東京ビエンナーレ 2020 公式ロゴマーク発表、ディレクターステイメント プレイベント開催のお知らせ

プレス各位

平素よりお世話になっております。

2020 年、世界中から大いに注目される東京を舞台に『東京ビエンナーレ』を開催いたします。東京ビエンナーレは、歴史文化的にも特徴のある東京都心北東エリアの公共スペース、公共施設、学校施設、寺社会堂などを会場として、来年より隔年で開催する国際芸術祭です。

文化芸術にとどまらない多方面のジャンルの専門家や地域住民・企業人たちと共に、2020 年とその先の東京の未来を描いていく、民間主導によるボトムアップ型の芸術祭です。

本リリースでは数多く開催されている芸術祭を東京で行う意義を問い、その答えを見つけるべく、ディレクターの中村政人によるステイメントと、公式ロゴマークの発表、来年の本開催につながるプレイベントについてご案内させていただきます。

東京ビエンナーレ 2020

会期: 2020 年 7 月中旬～9 月上旬

会場: 東京都心北東エリア

東京ビエンナーレ 2020 プレイベント

※P4 を参照ください



Photo by Masanori Ikeda (Yukai)

■ 東京ビエンナーレ 2020 総合ディレクター中村政人からのステイトメント

「越えろ！跳び込め！東京ビエンナーレ！」

何を恐れているのか？何をこだわっているのか？

終わりのない変化には、容赦がない。今しか越える時はない。絶えず変わり、何度でも越えるしかない。

記憶を越えろ、歴史を越えろ、政治を越えろ、学校を越えろ、規制を越えろ、デザインを越えろ、

建築を越えろ、ダンスを越えろ、ファッションを越えろ、ゲームを越えろ、メディアを越えろ、自分を越えろ、

アートを越えろ！

そして、先の見えない時代に何が待ち受けていようとも、自分事として跳び込め。好き嫌いを言っている場合ではない。跳び込む事は、同時に寛容になるという事。見る前に跳び、全てを受けとめる覚悟をもて。

優しさに跳び込め、楽しさに跳び込め、未来に跳び込め、教育に跳び込め、町会に跳び込め、企業に跳び込め、他者に跳び込め、権力に跳び込め、真実に跳び込め、スキマに跳び込め、大衆に跳び込め、都市に跳び込め！

東京の社会的生態系が自ら変わるためには、今までの世界観をそれぞれの領域で越えるしかない。見えなかった新しい領域に跳び込むしかない。都市開発の名の下に、歴史や文化を切り捨ててはならない。江戸期から培ってきたソーシャルキャピタルを基盤に、文化をつくり蓄積する社会ヘシフトチェンジしなくてはならない。「東京ビエンナーレ」は、そのための新しい文化のフレームを生み出すために東京を開拓する。

狭い個人主義である「私」を越えろ！そして未知なる「私たち」に跳び込め！

2019年8月6日

東京ビエンナーレ 2020 総合ディレクター 中村政人

○中村政人 Masato Nakamura

1963年秋田県大館市生まれ。アーティスト。東京藝術大学絵画科教授。アートを介してコミュニティと産業を繋げ、文化や社会を更新する都市創造のしくみをつくる社会派アーティスト。第49回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本代表。平成22年度芸術選奨受賞。2018年日本建築学会文化賞受賞。1997年よりアート活動集団「コマンドN」を主宰。秋田県大館市等で地域再生型アートプロジェクトを多数展開。プロジェクトスペース「KANDADA」(2005-09)を経て、2010年より民設民営のアートセンター「アーツ千代田 3331」(東京・千代田区)を立ち上げ、2011年より震災復興支援「わわプロジェクト」、2012年-2017年に東京・神田にて「TRANS ARTS TOKYO」企画・実施。2015年、個展「明るい絶望」開催。2016年よりプロジェクトリーダーを育成する「プロジェクトスクール@3331」を開校。2018年より「東京ビエンナーレ」を始動。著書に「美術と教育」「新しいページを開け！」等。



■ 東京ビエンナーレ 2020 公式ロゴマーク

東京ビエンナーレクリエイティブディレクターであるデザイナー佐藤直樹による公式ロゴマーク。佐藤は東京ビエンナーレでも「デザインプロジェクト」として、大原大次郎(グラフィックデザイナー)、セキユリヲ(デザイナー)、田中義久(グラフィックデザイナー、美術家)、原田祐馬(デザイナー)と共に、デザインのあり方そのものを問うプロジェクトを立ち上げています。本ロゴマークは準備期間から本番に向けて、様々な場所で展開されます。



《デザイナーからのコメント》

単体としてのロゴを策定するのではなく、「変化」を含めてシンボル化させていきます。第一回目のマークとして、「ゼロ」から立ち上げることと「一回目」であることを刻むべく、よりシンプルな「正円」という形を選択しました。中心に「空」を設け、その直径の二倍幅の帯状の円によって囲んでいます。これを起点に、第二回、第三回へと展開していきます。色は幅のある(空の色でもある)青で、使用状況によっても変化します。タイプフェイスも可動的に運用します。狭い路地の隙間などにも臨機応変に展開していくイメージです。

○佐藤直樹 Naoki Sato

1998年、アジール・デザイン(現アジール)設立。2003～2010年『セントラルイースト東京』プロデュース。2010年、3331 Arts Chiyodaの立ち上げに参画。『TRANS ARTS TOKYO』を機に絵画制作へ重心を移す。サンフランシスコ近代美術館パーマネントコレクションほか国内外で受賞多数。美学校講師。多摩美術大学教授。



■ 東京ビエンナーレ 2020 プレイベント開催のお知らせ

2020 年開催「東京ビエンナーレ 2020」の全貌をご覧になれる「プレイベント」では、多彩な参加アーティスト、キュレーターによるプロジェクトの実現プランを発表。また、特徴であり魅力の一つとも言える個性溢れる会場の数々も発表いたします。千代田区、中央区、台東区、文京区に縦横無尽に行き来しつつ、鑑賞者が自由に作品と街を味わうことができるいままでにない祝祭「東京ビエンナーレ」の計画段階をお披露目します。

〈概要〉

- タイトル: 東京ビエンナーレ 2020 プレイベント(仮称)
※本タイトルは複数箇所で開催されるプレイベント全体の総称です。
- 日程: 2019 年 10 月 12 日(土)～11 月 24 日(日)
※会期中には、複数のサテライト会場で異なるプロジェクトによる展示・イベントが実施されます。
- 会場(展開例):
[会場 1] アーツ千代田 3331 1 階 メインギャラリー(千代田区外神田 6-11-14)
[会場 2] COREDO 室町テラス 3 階 室町三井ホール&カンファレンス(東京都中央区日本橋室町 3-2-1)
- 料金: 一部入場料あり、イベント参加料は各回で設定が異なります
- 総合ディレクター: 中村政人(アーティスト)、小池一子(クリエイティブディレクター)
- プロデューサー: 中西忍(建築家)
- 主催: 一般社団法人東京ビエンナーレ、東京ビエンナーレ市民委員会
- 協賛: 三井不動産株式会社
- 協力: 3331 Arts Chiyoda、一般社団法人非営利芸術活動団体コマンド N

【会場 1】

- タイトル: 東京ビエンナーレ 2020 プレイベント「計画展」(仮称)
- 会場: アーツ千代田 3331 1 階 メインギャラリー(東京都千代田区外神田 6-11-14)
- 会期: 2019 年 10 月 12 日(土)～11 月 4 日(月・祝)

東京ビエンナーレ 2020 の全体計画(参加作家、プロジェクトコンテンツ、会場 MAP、クラウドファンディング)や、観客から東京ビエンナーレ 2020 にコミットできる情報発信エリアを設置します。会期中には様々なトークイベントやワークショップを実施予定。

●参加アーティスト:

伊藤ガビン(編集者)、江渡浩一郎(メディアアーティスト)、佐藤直樹(デザイナー)、嶋田洋平(建築家)、竹内昌義(建築家)、椿昇(美術家)、藤浩志(アーティスト)、津村耕佑(デザイナー)、八谷和彦(メディアアーティスト)、山崎亮(コミュニティデザイナー)、四方幸子(クリエイティブキュレーター)、李美那(キュレーター)、やんツー(メディアアーティスト)、鈴木康広(アーティスト)、スプツニ子!(メディアアーティスト)他

●東京ビエンナーレが取り組んでいくソーシャルプロジェクト:

災害対応力向上プロジェクト/株式会社オンデザインパートナーズ(建築設計事務所)他
批評とメディアの実践プロジェクト RELATIONS/毛利嘉孝(社会学者)他
学環創出プロジェクト/伊藤達矢(東京藝術大学特任准教授)他

[会場 2]

●タイトル: 東京ビエンナーレ 2020 プレイベント

「水都・日本橋のゲニウス・ロキは、どこへ向かう? コンテンポラリーアーティスト 3 人の新作展」

●会場: COREDO 室町テラス 3 階 室町三井ホール&カンファレンス(東京都中央区日本橋室町 3-2-1)

●会期: 2019 年 10 月 26 日(土)~11 月 10 日(日) ※10 月 25 日(金)関係者内覧会有り

●協賛: 三井不動産株式会社

「水都東京 日本橋の未来」(仮称)をテーマに、陣内秀信(建築史家、法政大学江戸東京研究センター センター長)による時代考証から、古くから蓄積されている基層文化を展示すると同時に、テクノロジーや社会の未来へ向かうテーマ性を持った 3 名の作家(鈴木康広、スプツニ子!、やんツー)によるアート作品も展示されます。また、会期中には、箭内道彦(クリエイティブディレクター)、遠山正道((株) スマイルズ 代表)、林千晶((株) ロフトワーク 共同創業者 代表取締役)によるシンポジウムの他、様々な領域の研究等で活躍する第一線の専門家によるトークセッションを行い、来場者と共に日本橋の未来を描きます。



Photo by Mami Arai



Photo by Takuya Matsumi



Photo by Masako Nakagawa



〈参考作品〉やんツー + 菅野創

SENSELESS DRAWING BOT #2 Performance @TRANS ARTS TOKYO 2012